日本航空 OB 乗員 有志の会ニュース

2022.3.31
No.22-004

HP：http://jalfltcrewob.web.fc2.com/
Mail：jalfltcrewob@gmail.com

安全で明るい JAL

内外の団結強化で解雇争議の解決へ

客室原告団は、当面の間活動休止

内容詳細は原告団 HP 参照を

客乗原告団は、2 月以降当面の間、活動を休止することを決定致しました。

今後は、CCU・JHU それぞれ所属する組合の方針に則って

争議の全面解決に向けて取り組んでいきます。

2010 年 12 月 31 日に JAL を整理解雇されて以降、私たち客乗原告団・乗員原告団は共に解決に向けて取り組んでまいりました。そして、この間全国の支援者の皆さまのご支援のお陰で、11 年間に亘り取り組みを続けて来ることができ、現時点で 2 名の客乗原告、4 名の乗員原告の地上職への復帰が実現しています。これまでのご支援に深く感謝申し上げます。

しかし、昨年の春闘以降、要求の具体化や活動方針、会社対応の評価等を巡って、客乗原告団内の不一致が表面化してきました。また、昨年 4 月 4 日に乗員原告の 3 名によって突然発足した JHU（JAL 被解雇者労働組合）は、当初 3 名での活動を表明し、現役・原告の JHU への加入については「働きかけはしない」「団結の阻害になると考えた場合は断る事になる」と説明していましたが、その後 JHU の取り組みに客乗原告の一部が参加するようになり、12 月には客乗原告 19 名が JHU に加入したことが明らかになりました。これにより、客乗原告団員は CCU と JHU の 2 つの組合所属の構成となりました。（これらの経緯については、添付の資料①今年 1 月 10 日付で出された『CCU 見解』をご覧下さい。）

こうした一部の客乗原告の動きは、支援者への説明にも影響し、昨年 6 月 29 日に 7 名の支援者により出された『緊急アピール』の内容は、その後支援者との面談で、原告から正確な情報が伝わっていない中で出されたものであることも判明しています。また、今年 2 月 16 日に開催予定の『JAL 争議の全面解決をめざす東京集会』も、呼びかけ人の方と両原告団との話し合いが行われないまま開催されることになり、支援者の皆さまにもご迷惑をおかけする状況になっています。

私たちは、客乗原告団内の団結を今一度取り戻すべく集会やミーティングを重ねてきましたが、その溝を埋めることが出来ないばかりか、12 月 23 日付けで出された『19 名の JHU 客乗組合員による CCU 執行部への抗議声明』（添付資料②）が決定的なものとなり、「客乗原告団を一旦解散し再結集すべき」との声が多く聞こえるようになりました。

客乗原告団員が CCU と JHU の 2 つの組合所属になったことで、統一性がなくなってきていることから、客乗原告団三役で今後の原告団のあり方を話し合いました。今年 1 月 16 日に客乗原告団集会を開催し、三役提案として「2 月以降、当面客乗原告団としての活動を休止する。なお、客乗原告団としての活動は休止しても、今後はそれぞれの組合の方針に則って取り組んでいく」ことを提起し議論しました。更に、1 週間後の 1 月 23 日にも客乗原告団集会を開催し、議論を重ねて、賛成多数で三役提案を決定致しました。

今後については、これまでのように JAL 不当解雇撤回原告団の黄色い幟やオレンジの襷、横断幕を掲げての客乗原告団の活動にはなりませんが、CCU・JHU それぞれの組合の方針に則って、争議の全面解決に向けて取り組んでいく所存です。

なお、これまでの経緯等につきましては、客乗原告団三役が中心となり、支援者の皆さまへのご説明に伺いたいと思っております。何卒、ご理解の程をお願い申し上げます。

ご不明な点がございましたら、JAL 不当解雇撤回原告団事務局（TEL：03-5705-5716　Mail：genkokudan@jalgkd146.org）までご連絡下さい。よろしくお願い致します。

2022 年 1 月 25 日

客乗原告団　団長：内田妙子
副団長：斉藤良子　森陽子　安藤眞由美
事務局長：飯田幸子

皆さん　2022 年も
カンパ・取り組み参加
お願い致します

OB 乗員有志の会：カンパ振込先

今後の日程

＊宣伝行動・各地集会：私たちはあきらめない!!!

原告団 HP 日程参照

JAL 被解雇者労働組合（JHU）ＨＰ参照

＊山口 宏弥氏 著書紹介：「安全な翼を求めて」

アマゾン書評

・詳細は、枠内をクリックして御覧下さい。